

第5回徳島県介護支援専門員実践研究大会報告書

令和4年3月15日

学術研修委員会 湯浅 雅志

日時：令和4年3月14日（月）10:00～15:30

会場：Zoomによるオンライン開催（スタッフ及び発表者はときわホール）

参加者：47名

去る3月14日、二年ぶりに徳島県介護支援専門員実践研究大会を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン開催となりましたが、香川県立保健医療大学の片山陽子教授により「人生の物語りを支えるアドバンス・ケ・プランニング」と題してご講演いただき、ACPの考え方や、私たちケアマネジャーが実践する上で、その人らしく生きるためにどのような支援ができるかなど多くの学びがありました。

午後からの研究発表では、3名のケアマネジャーが日頃の取り組みから得られた知見を発表していただき、よく準備され意義深い内容でした。

オンライン上ではありましたが参加者から多くのご質問をいただき、本テーマに対して、常日頃からケアマネジャーの皆様の関心の高さが伺えました。

その後、助言者である片山教授と発表者の3名で、発表の内容で話したりないことや発表するまでの準備などざっくばらんにディスカッションしていただき、他の参加者からの質疑も交えながら、日頃の業務からの学びや発表までの秘話やコツなど大いに盛り上がりました。

現場の私たちケアマネジャーが研究発表する重要性と必要性をあらためて考える機会となりました。

実践研究発表演題

(1)「人生の最終段階に関わる意思決定支援

～自分の人生に向き合い、望む生活を過ごした独居高齢者への支援～

佐藤 禎太氏（社会福祉法人白寿会 白寿会在宅介護支援センター）

(2)「認知症高齢者の意思決定を支援するために

～本人の声（思い）に耳を傾けストレングスに着目した支援～

石田 直子氏（公益社団法人徳島県看護協会 指定居宅介護支援事業所徳島）

(3)「コロナ禍の中、在宅看取りを行った家族の意識調査に関する一考察」

荻田 靖子氏（徳島市医師会居宅介護サービスセンター）

共同研究者：笠松 哲司氏（かさまつ在宅クリニック医師）

東條 喜代美氏、佐藤 香織氏（徳島市医師会居宅介護サービスセンター）

R3年度学術大会

本日の内容



- ACPとは
- 人生の軌跡にそったACP
- 時間軸で本人、家族の物語りを理解する
- 暮らしの中でのACP：ケアマネの実践

2

人生の最終段階に関わる意思決定支援

自分と人生に向き合い、家族支援を助けた経験談から学ぶ

社会福祉士 白鳥 真
 社会福祉士 白鳥 真
 社会福祉士 白鳥 真

コロナ禍の中、在宅看取りを行った家族の意識調査に関する一考察

一般社団法人 社会福祉士会 社会福祉士センター
 佐藤 孝子
 佐藤 孝子 佐藤 孝子 佐藤 孝子

認知症高齢者の意思決定を支援するために

本人の声（思い）に耳を傾けストレngthsに着目した支援

公益社団法人 認知症高齢者福祉協会 指定居宅介護支援事業所 徳島
 佐藤 孝子
 TOKUSHIMA-CITY